

修士論文(要旨)

2009年1月

地域通貨の運営を主導する中高齢者にとっての地域通貨の意味  
ー地域通貨「ピーナッツ」を事例としてー

指導 杉澤秀博 教授

国際学研究科

老年学専攻

20641608

葛西 力

## 目次

第1章	はじめに	1
1.1	地域づくりの意義	1
1.2	理論	1
1.3	地域づくりの端緒としての地域通貨	3
1.4	先行研究	4
1.5	地域通貨「ピーナッツ」	4
1.6	目的	6
第2章	研究方法	7
2.1	分析対象	7
2.2	調査方法	7
2.3	分析方法	7
第3章	結果	10
3.1	結果図とストーリーライン	10
3.2	結果	11
第4章	考察	20
4.1	本研究の特徴	20
4.2	地域通貨は理念を実現できたか	20
4.3	高齢者を地域づくりの中心部隊にするには	21
4.4	課題	21

参考文献  
資料

## はじめに

ますます進展する高齢社会において、公的・実践的・当事者的視点から地域づくりの必要性が叫ばれている。その端緒として地域通貨に着目した。高齢者が中心となって運営している点や研究対象として十分な規模・歴史を有している等の理由で、千葉市中央区のある商店街を中心に流通している地域通貨「ピーナッツ」を事例として取り上げた。実証的な先行研究はほとんどない。本研究の目的は、地域通貨の運営を主導する高齢者にとって、それはどのような経験であるのかを明らかにすることである。

## 方法

分析対象者は、「ピーナッツ」の運営に深く関わっている中高齢者 8 名である。データ収集は半構造化インタビューによって行った。研究上の倫理的配慮に関しては、口頭及び文書で説明し同意を得た。分析方法は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下、M-GTA)を採用した。理由は以下の通りである。経験を言語化することを目的としているので、データの断片化を前提とする方法は採用できないこと。M-GTA は質的研究において極めて重要な「研究をするのは誰か」という問題に真摯に向き合っていること。M-GTA は研究の社会的意義を最重視していること、以上 3 点である。高齢社会における地域づくりは理論的な議論で終わる問題ではないのである。

## 結果

結果の概要であるストーリーラインを示す。「」は概念、[]はサブカテゴリー、【】はカテゴリーを表す。以下、ストーリーライン。

対象者の中高齢者たちは、「商店街への提案」「収益改善策の模索」といった【きっかけ】によって、[地域貢献面での期待]と[実利面での期待]で構成される【ピーナッツを通して見えた地域づくりへの希望的観測】をもった。しかし、このような【希望的観測】を持って「活動開始」するが、【一筋縄ではいかない運営活動】に直面することになった。中でも、この活動の中心舞台であった商店街の多くにみられた【多数派の否定的反応】に基づく「反ピーナッツアジェーションの展開」は障害となったが、彼らは逆にそれを「対立という活動推進ブースター」として活動の促進に利用していた。更に【活動継続のための戦略】を採用することで、活動の担い手の高齢者は運営活動を継続してきた。その結果、【獲得した経験的財産】を得ることになった。この【財産】には[積極的側面]と[消極的側面]があり、例えば積極的側面には「メンバー間の交流のログ」「倒産回避」などが、消極的側面には「出費の機会の増加」や「人・人関係」拡大に対するアンビバレンスなどがあつた。

## 考察

地域づくりへ参加する高齢者という観点は一般的であるが、本研究は地域づくりを推進する主体としての高齢者の経験を記述した点で意義がある。

## 参考文献

- 1) 高齢社会対策の推進の基本的在り方に関する有識者会議：高齢社会対策の推進の基本的在り方について一年齢から自由な社会をめざして一. 2001.
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所：平成 18 年度社会保障給付費. 2008.
- 3) 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)：世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査. 2006.
- 4) 内閣府政策統括官(総合企画調整担当)：高齢者の健康に関する意識調査. 2003.
- 5) パットナム R ロバート：孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生. 柏書房, 東京, 2006.
- 6) 浅川達人, 古谷野亘, 安藤孝敏ら：高齢者の社会関係の構造と量. 老年社会科学, 21 (3), 329-338, 1999.
- 7) 浅川達人：高齢者の人間関係. 新社会老年学ーシニアライフのゆくえ(古谷野亘・安藤孝敏編). ワールドプランニング, 2003, p109-122.
- 8) 西部忠：地域通貨の政策思想. 進化経済学論集, (10), 337-346, 2006.
- 9) 社会保険庁：平成 18 年度版事業年報. 2008.
- 10) 西部忠ら：苫前町地域通貨第二次流通実験報告：アンケート・インタビュー調査を中心に. 北海道大学大学院経済学研究科 Discussion Paper, Series B, (75), 1-59, 2008.
- 11) 湖中真哉：地域通貨はなぜ使われないか：静岡県清水駅前銀座商店街の事例. 国際関係・比較文化研究, 3(2), 225-250, 2008.
- 12) 鈴木健二ら：地域通貨を介した在宅高齢者への生活支援と住民による地域貢献. 日本建築学会計画系論文集, (609), 61-67, 2006.
- 13) 地域通貨全リスト. <http://www.cc-pr.net/list/>.
- 14) ブルーマー ハーバート：シンボリック相互作用論ーパースペクティブと方法. 勁草書房, 東京, 1991.
- 15) 多田優也ら：SNS 機能を持つ地域通貨システムの提案. 情報処理学会研究報告, (56), 31-36, 2007.
- 16) 山田賢司：まちづくりの手段としての地域通貨ー千葉の地域通貨「ピーナッツ」の事例をもとに. 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要, (62), 19-33, 2006.
- 17) 横山登志子：「現場」での「経験」を通じたソーシャルワーカーの主体的再構成プロセスー医療機関に勤務する精神科ソーシャルワーカーに着目してー. 社会福祉学, 47(3), 29-42, 2006.
- 18) 木下康仁：ライブ講義 M-GTA 実証的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて. 弘文堂, 東京, 2007.
- 19) 木下康仁：グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い. 弘文堂, 東京, 2003.